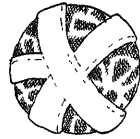


巻頭言

蛇行の理由

— 六月の遊びに思う —

吉村真理子



空の旅の楽しみは眼下に広がる風景の変化です。山峡をかけ下っていた川も平野部になるとゆつたりと蛇行して流れています。それを見ていると先頃さる新聞に載っていた山本裕司氏のエッセイの中に紹介されていた俵万智さんの短歌が思い出されました。

蛇行する川には蛇行の理由あり

急げばいいってもんじゃないよと

この歌は俵さんが北海道の釧路湿原を訪れたときに詠まれたそうですが、釧路川の



中流で大掛かりな改修工事がなされ、蛇行部分をカットしてコンクリート護岸の間を真つすぐに流れるように付け替えたため、湿原は年々小さくなり乾燥化の道をたどっているとのこと。当然、湿原に住む動植物は減びていかざるをえません。同じ記事の中に、ある研究機関が実験河川を作り、一方は蛇行し「浅瀬」や「淵」のある川、もう一本は直線の川を作り、そこに住む魚の数を調査してみると、蛇行した川には直線の川に比べ七、八倍の魚が住んでいたと記されていました。蛇行の理由は「生命」を育むためだったのです。



ここまで読むと私たち保育者はこの記事に六月の子どもの姿を重ね合わせて考えてしまいます。

若葉が風に揺れてちらちらとこもれ日を落とす園庭で、子どもたちは四月当初の緊張や不安がうそのようにのびやかに遊んでいます。自分の好きなことをみつけてじっくり取り組んだり、気の合う友達といっしょに遊ぶ楽しさも覚え始めたところでしょう。それぞれの子どもの軌跡はさまざまに蛇行していたに違いありません。

それでも中にはやりたいことが見つからずうろろ歩き回ったり、グループの輪に入りかねて佇んでいる子や友達と意見が合わなかったのか一人離れて相手をにらみつけている子もいます。淵でよどんでいたり渦に巻き込まれてぐるぐる回っているようなものでしょうか。しかし、やがて快調に浅瀬を乗り越え、いつのまにかその子たち



も遊びに加わってきます。面白そうだな、私もやってみたい、でもうまくやれるかなという不安から一步を踏み出せない子どもも、自分の思いどおりにならないとすぐに腹をたてて相手に怒りをぶつける子どもも、そのままでは幼稚園は一向に面白くありません。思い切って「入れて」という決心をするまでにはその子なりの葛藤があり、それを乗り越えさせたのは「みんなと遊びたい」という子ども自身の強い願いがあつたからではないでしょうか。

なぜ子どもは遊ばずにはいられないのか、それは楽しく遊ぶことすなわち充実して生きている実感であり、その経験が成長の糧になっているからだと思います。入園して二か月の間、母親や家庭から離れて感じる淋しさ、知らない子どもたちと付き合う不安、慣れない集団生活の窮屈さや欲しいものがすぐに手に入らない不便さを感じながらも、珍しい遊具や玩具に誘われ、年長児たちの遊んでいる様子に魅せられました。今まで家庭では知らなかった魅力的な世界が目の前に広がっているのですから入らない手はありません。

楽しげに遊んでいる今に至るまでの回り道や停滞、ぶつかり合いなどの経験はすべてその子どもの貴重な財産として活かされています。園生活に慣れて好きな遊びを見つければ、友達と出合い仲間といっしょに遊ぶ喜びを味わうためにはどれほどの能力が必要か計り知れないほどです。未知の世界に入り、物や他の子どもたちとどうかかわっていけば心地よい自分の居場所が確保されるのか必死で探し求めてきたにちがいない





ません。その心地よい居場所とは遊びの楽しさを知ることだと思っております。

また、大きくとらえると「遊び」そのものが蛇行する経験と言えるでしょう。「そんなことをしてはだめ」「なかよく遊びなさい」というのはコンクリートの水路のようなもので、最短距離だと思っても子どもの身についた学習にはなりません。

五歳のテッチちゃんは仲間のやっっているお店ごっこに入りたくてたまらないのですが、いつも自分勝手に店を仕切るのだから入れてくれなくなりました。それでもみんなと遊びたいテッチちゃんは考えたあげく、彼の特技である折り紙の手裏剣をたくさん作って箱にいれ「手裏剣はいりませんか」とその店に売りに行ったのです。ちょうど商品のパッケージが品薄になっていたので「ぜんぶちようだい」と商談成立。テッチちゃんはまたせつせと手裏剣を折り始めました。瞬く間に手裏剣は売れたとみえ今度はお店の方から仕入れにやってきました。こうして双方とも大満足な時を過ごしたためその後の人間関係は急速によくなり、テッチちゃんも拒否されることなく仲間に入れてもらえるようになりました。テッチちゃんもみんなと楽しく遊びを続けていくためには、他人の気持ちが変わり自分の役割を果たすことが大切だということに気づいたのです。

保育者も遊びのなかでの子どもの育ちをどう見ていくかについて改めて考えてみる
ことが大切ではないでしょうか。